

「足元からの探求」

原発と教育

山下正寿

福島原発事故直後の東電幹部の対応を思い出していただきたい。まるで他人ごとのように平然としてウソをつく姿を見て、「どうしたらこんな人間になるのだろう」と教育のありようを考えさせられた。

「原子力村」は、東電内にとどまらず、政界、官界から、学界、労働界をも巻き込む広大な世界だ。「原子力村」リーダーのほとんどは一流大学をでた「勝ち組」エリートであり、立身出世の一つのモデルでもあった。「地位・名誉・財産」はあるが「人格・良識・良心」の欠落したエリートが「戦争なみの原発被害」をもたらし、再稼働をすすめている。こうしたエリートをめざす教育を根本から見直す必要がある。教育もまた「受験学力神話」から脱皮し、「人格形成の教育」を取り戻すことが求められている。

福島原発事故について、今、「原発安全神話」を作り出した科学、文化、教育、マスコミ関係者の責任が問われている。子ども・父母・教職員を「原発見学」に参加させた教育委員会や学校の姿勢を正してきただろうか？ 福島の高校生、教員、元教員の人たちと交流する中で福島教育行政の対応に問題を感じてきた。浜通りで津波や原発被害に遭い都市部の進学校に避難している高校生たちに対して、在学中の高校生たちとの交流をすすめて、従来通りの進学学習態勢を維持しようとし

たこと、転校希望生徒に「あなたはこの学校の学力についていけますか」と問いただしていたことなど、「今までの学校間格差教育を反省し、人を育てる教育の場として学校を再生しなければならないと思った」という福島の教員の発言があった。

「小学・中学・高校と成長に応じて家族、地域、日本、世界へと視野を広げる時に、「受験づけ」「スポーツづけ」「資格試験づけ」などで人格形成の機会を棚上げしていないだろうか。「人に勝つ」ことにこだわりすぎる歪んだプライドは、進路などで敗者となった時に、他人への攻撃性をもち排他主義や民族主義に転じる可能性もある。高校や大学の進路がますます厳しくなり、身近な社会とのつながりを持たないままでは、進路選択もできず、進路が絶たれる深刻な事態に直面しても打開の道筋を見つけることは困難だろう。足元の農林漁業、地域産業や地域づくりに関心を持ち、若い感性でチャレンジする意欲を育てる労働学習をすすめてほしい。

ビギニ事件の実相は教科書で教えられないまま、現代史から消滅させられた。「原発安全神話」の教育が、「新たな化粧をした原発必要神話」として登場している。青少年に原発事故の現実や自然エネルギーの可能性を教えず、「電気づけ」にしたまま、原発再稼働を推し進める教育を許してはならない。来たる「大震災」対策を津波から逃げることに矮小化せず、学校などの避難所対策(電源・保温・加熱など)、放射線防護対策を立て、子供たちの安全確保とエコ学習に地域住民参加で取り組んでほしい。

野郎の美ヶ原を訪れた。神々しいサンピラー、日本アルプスのモルゲンロート、見渡す限りの輝く雪景色、と思えば自然の驚異が突然の猛吹雪、そして窓辺を飾る美しい「霜の華」。数々の新しい体験に胸躍らせた。だが、ホテルのショップで「山形県蔵王スノーモンスター」の絵葉書を見つけた。いやいや買いたい。いつかモンスターたちに会いに行くと、願ひながら。

晴天の高知を飛んだ私たちが生憎山歩き班の和田先生がご

蔵王温泉スキーツアー報告②

会いたかったモンスター

篠原 真弥

蔵王、それは私にとって憧れの響き。青空の下で輝くスノーモンスターたちの写真を目にした日から、いつか冬の蔵王を訪れ、モンスターたちに会いたいと願っていた。

昨年、厳冬真最中に、長

その願いが1年後にかなえられようとは!? きっかけは友人の橋元夫人。「高退協のスキーツアーに行かない?」



病気で不参加のため、井垣先生と二人の雪中ランデブー?? 初日も二日目も断続的な吹雪の中、重い一眼レフカメラ2台を肩に、井垣先生の後を必死で追いかけることに。雪山もお手の物の先生は、私のために足場を固めながら新雪の林の中をさ迷ってくれた。先生は真白い林間を存分に楽しんだ。惜しむらくは、「2週間前の雨でモンスターたちが姿を消してしまった」こと。でも、雪中での甘酒のおいしかったこと! 山男の様々な知恵に

高知県人権共闘16年度「総会」と講演会のご案内
・7月16日(土) 14:00~ 講演会
「人権課題の到達点について」
梅田 修さん(滋賀大学)
15:40~ 総会
(終了後 懇親会)
・場所 高知県婦人会館(高知市丸の内)

小松先生、痛い足を引きずりながら旅のお世話を本当にありがとうございました。最後に、ツアー報告がエッセイとなりました。お許し下さい。

感嘆!! 蔵王最終日、3日目。朝。天は晴れ女に味方した。まぶしい太陽のもと、更にまばゆい樹氷の輝き。ゴンドラからの遠望。更に感動的な鳥兜山頂からの澄み渡る展望。林の中を通り抜ける斜光と白い地肌を落ちる木々の影。鹿やウサギとおぼしき足跡が森の命を感じさせる。前を歩く山男の赤いヤッケも心なしか弾んでいた。山の天気は女心。昼になると再び雪風。地蔵山頂では立っていられずすく下山。蔵王よ、また来るね。スノーモンスターよ、その時は消えずに待っててね。

高退協親睦旅行計画
・時期 9月から10月にかけて
・場所 長崎県軍艦島方面か兵庫県天空の城竹田城方面。意見を聞かせて下さい。